堀江中学校　校長室だより　　令和7年度 No.33

さくら

令和7年12月8日（月）

火　種

冬の時期に「火種」とは物騒な話ですが、皆さん自身に、人の心に火をつける、良い意味での「火種」になってほしいのです。

看護学校の戴帽式（たいぼうしき）では、学生が手にした燭台（しょくだい）のロウソクに、先生が火を灯していきます。暗闇の中に浮かび上がるのは、これから人の命を預かる医療の道へ進む、学生たちの真剣な表情と覚悟です。

また、結婚披露宴のキャンドルサービスでは、新郎新婦がゲストのテーブルを回り、感謝の気持ちを込めて火を灯していきます。そこには、新郎新婦の喜びの笑顔とともに、二人を祝福するゲストの温かな表情が映し出されます。

どちらのシーンも、暗い場所から一つの火種をもとに、一つ二つと灯りがともり、やがて周囲を明るく照らしていきます。前者は「覚悟」の灯りを、後者は「幸福」の灯りを、それぞれ広げていくのです。

これを私たちの生活に重ねてみましょう。「火種」とは皆さん自身のことです。皆さんは、周囲の人たちの心に火をつける力を持っています。

それでは、どのようにして他者の心に火をつける火種になれるのでしょうか。それは、皆さんの「ものの見方・考え方」、「行動」を周囲に示すことです。ただし、その火種は周囲を焦がす誤ったものではなく、周囲を温める正しく誠実なものでなくてはなりません。

具体的には、「当たり前ではなく有り難い」、「見返りを求めない心」、「誰かがやるだろうより自分がさせていただく」などです。皆さんの温かく誠実な火種は、必ず周囲の人に伝わり、やがてその場を明るく照らす大きな光となります。誰かが火をつけてくれるのを待つのではなく、皆さん自身が最初の火種になってくれることを願っています。

学校ホームページで、日々の教育活動のようすを公開しています。どうぞ、本校ホームページを閲覧してください。